

う時に活用するというのもありなのかと思っております。こういう自己処理型トイレの購入について、市民局長の答弁をいただきたいと思います。

A 〈市民局〉自己処理型トイレも含めまして、災害時のトイレの確保につきましては、今後とも、平常時の利用方法や費用対効果等、様々な観点から、しっかりと検討してまいりたいと考えております。

テレワークについて

Q 〈平畠〉市役所でも、テレワークいわゆる在宅勤務が利用されたと思いますが、市役所における在宅勤務とは具体的にどのような仕事でしょうか、お尋ねします。

A 〈龍総務企画局長〉今回の新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために実施した在宅勤務につきましては、市役所の庁内ネットワークにつながるパソコンを使用して行う場合のほか、パソコンを使用しなくても自宅で実施できる業務が整理できる場合についてもその対象としたところでございます。

在宅勤務中の業務につきましては、それぞれの部署が所管する業務に応じて自宅でできる業務を整理した上で、実施することとしており、例えばデータの集計や報告書の作成、企画・立案などの業務がございます。

Q 〈平畠〉それでは市役所において実施された時差出勤や在宅勤務につきまして、時差出勤の活用状況と在宅勤務はどのような部署でどれくらい実施したのかあわせてお尋ねします。

A 〈総務企画局〉時差出勤につきましては、新たな始業時間を設定して実施したところであり、本



庁舎では9割を超える所属が活用しているところでございます。

在宅勤務の実施にあたりましては、市民に最も近い基礎自治体として、感染症対策に係る業務や窓口業務など、市民のために必要不可欠な業務に従事する部署に必要な人員を充てることとした上で、それ以外の部署で実施したところであります。4月27日時点での実施率は50.2%となっております。

Q 〈平畠〉1日、4月27日時点で50パーセントということあります。もう少し詳しく言うと、全職員、教職員を除く正規職員8,683人中必要不可欠な業務に従事する以外の部署正規職員3,204人、そのうちの約48%がその日在宅勤務をしていたということあります。会計年度任用職員も同様に入って、合わせて職員数が4千人の内2千人が在宅勤務をして50パーセントというようなことです。今回保健福祉局や経済観光文化局・市民局等の大変忙しい部署と、そうでもない部署もあったと思います。

この危機的状況に対応するために部署を超えてどの程度協力したのかお尋ねします。

A 〈総務企画局〉市民の生活や経済活動を守るために各種施策を迅速かつ的確に実施するため、人事異動や職務命令による延べ3,200人程度の応援体制を構築するとともに、医療機関等へ配付するマスク等の入手や、PCR検査のための検体搬送業務等を農林水産局や環境局が実施するなど、局区を超えた柔軟な業務分担を行いながら、全庁を挙げて取組みを進めているところでございます。

Q 〈平畠〉先ほど1日在宅勤務をした人が約2,000人ということでした。局を超えて応援を行ったのが、この2か月間で延べ3,200人ということですから、この人数が果たして多いのか少ないのかということです。

もちろん今回、保健福祉局とか経済観光文化局、それぞの担当以外にコロナの関連を担当されていて大変忙しくて、でも、その人数はもちろん入っていません。友人や同期で協力した、加勢したというのも当

2020
3/4

木質化された入部出張所を視察

福岡市では、林業のさらなる活性化を図るため、学校をはじめとして公共建築物の木造化・木質化を積極的に進めています。大変明るくて暖かみのある入部出張所になりました。

